

学部長挨拶

田中 一

最初に、この社会情報学部の学部長として第一回の創設シンポジウムに関係して御礼と御挨拶を申し上げます。社会情報学はその名の通りの学が学として形成されておりません。従って社会情報学と言うわけにはいかないわけですけど、この学部はそういうものを目指した教育と研究の場として創られたものであります。どの様にこの学部の成果をあげていくかということは、私達の大変難しい問題であるかと思うのです。けれども、そのための一つの試みとして、社会と情報に関する色々な御話をフリーに皆さんから伺いまして、そこから、社会情報学というものがはたしてあり得るものかどうか、とういうことを考えていきたいと思っております。

このシンポジウムは、ここにもあります様に第一回ということをごさいますて、一というのは整数の始めですから、いつまでも続くものであります。ずっと毎年続ける予定にしております。もちろんその在り方や構想は今後とも、その結果を見た上で更に色々考えていかなければなりません。そう思っております。意気込みとしては、毎回重ねて、レベルの高いシンポジウムにしてみたい、というふうに考えております。

その意味で、第一回としては然るべき方にぜひおいでいただきたいと思っておりましたところ、情報学の方では福村教授においで下さることになりました。福村教授は色々紹会申し上げれば沢山ございますが、名古屋大学の大型計算機センターの設置とその二代目のセンター長として、名古屋大学の情報科学の発展に大いに寄与されたただけではなく、人工

知能学会を創設されその運営に当ってこられ、現在は中京大学の情報科学部長として研究教育に頑張っておられます。ずっと長い間よく存じなかったんですが、同じ年に定年になったものですから、同じ年だったかなと思います。

「お祭」を考えているんじゃないかと思っ来てたというお話をさきほど伺いましたけれども、「まつり」は理を待つという意味にとることにして、大いに期待いたしたいと思っております。

もう一人社会学の方の大ボスとして吉田民人先生に来ていただきました。吉田民人先生は、この3月まで東京大学の文学部長をしておられて来年御定年の予定ではありますけれども、社会学の全国的なリーダーであることはもう皆非常によく御存知のところでありませぬ。

吉田先生は、ちゃんとレジメを用意してありながら、研究会らしい研究会ならそのことをもっと早くから言ってくれば、ちゃんとレジメを用意するのにとおっしゃって、先程私、叱られました。けれども、あらかじめ申しておけば、きっと吉田さんを今よりもうんと忙しくさせて大変申し訳ないことになるかと思いたしましたので、今までくらいのアナウンスで丁度いいんじゃないかと思ひまして、どうも、悪しからず。

それから、いろいろな方々に準備に当っていただきました。また、今日の集りにこれだけ沢山おいでいただきまして主催した方としては大変嬉しく思っております。